

地域に誇れる日本の地域医療のために、私は医療活動の枠にとらわれず、医師の視点から地域全体を俯瞰し、その地域のリーダーとして隅々まで医療を行き届かせ住民の健康生活を支える医師となりたい。

地域医療に従事する医師の様々なドキュメンタリーを見てきたが、その医師たちに共通するのが「地域住民の命・健康は自分が支える」という揺るぎない使命感である。中でも特に印象に残るのが、ザンビア共和国で活躍する山本香代子医師である。ザンビア共和国は国土の大部分を医療の行き届かない地域が占める。山本医師は無医村の巡回診療を無償で提供し、自身も無報酬でこの活動をしている。活動資金捻出のために1年の半分程を日本国内で診療医として働き、その資金を以て現地スタッフ、医療資材、巡回車や診療所等の設備を全て自らが手配・調達している。悪路を5時間かけてでも無医村に赴き、希望する全ての患者を診療している。更にはマラリア感染予防のための殺虫剤散布など、本来なら行政が手がけるべき作業まで率先して取り組んでおり、その精力的な姿に私は衝撃を受けた。

私はこれまで、医師に求められる力は豊富な知識と高度な技術だと考えていたが、医療状況が極めてシビアな地域においては、医師として全ての人に健康と福祉を提供するには、医療という限定された枠の中だけでの活動では人々を救いきれないことを思い知った。日本では医療過疎地に医師を派遣する取り組みがあり、僻地といわれる地域にも診療所は存在し医師の派遣が行われ、多少の不便はあっても医療の恩恵を受けることができる。しかしザンビア共和国の無医村のような、医療資源どころか生活インフラすら未整備の地域では、医師が医療提供のために治療行為以外のことを山のようにこなさなければいけない。山本医師は活動の原点を「一度見た現実から目を背けるのは人間として許されない」という考えだと語っているが、資材調達、業者や行政職との交渉、現地スタッフとのコミュニケーションを異国の地にて独りで続けるには、この強い信念に支えられているところが大きい。山本医師の姿を見て、医師に求められる力とは、患者を見つめ続ける観察力、病の本質を見抜く推察力、医療なきところに自ら分け入る行動力、様々な人とやり取りするコミュニケーション力、地域特性を理解し溶け込む順応力など、人が人とかかわっていくうえで欠かすことのできない“人間力”であると痛感した。私が将来、世界に誇れる地域医療に貢献するには、広い視点を以てこれらの力を磨かなければならないことを強く思い知った。

地域における医療システムの構築も重要な課題だが、一人の医師の熱意と使命感なくしては一人の患者の命も救えない地域が世界にはまだまだ多数存在する現実がある。将来私も、そのような地域で常に使命感を持ち続けた医師として働き、全ての人に健康と福祉を提供できるように尽力したい。